

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立西濃高等特別支援学校

学校番号

110

自己評価

学校教育目標	企業就労による社会自立に向け、高い志をもち、専門性の高い知識・技能を身に付け、地域や社会に貢献できる人間性豊かな生徒を育成する。 ① 夢や目標の実現に向け、様々な活動に挑戦し、自ら選択・判断できる生徒 ② 専門性の高い知識・技能及び態度を身に付け、社会人・職業人として自立できる生徒 ③ 豊かな人間関係を築き、進んで地域や社会に貢献できる生徒
--------	--

評価する領域・分野	1 「教育活動・学習指導」			
現状及びアンケートの結果分析等 <%表記について> (生徒%, 保護者%)	・教育方針や指導の内容をわかりやすく伝えている (88%, 67%) ・学校は地域と連携して特色ある教育活動を展開している (81%, 69%) ・学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、生徒は意欲的に取り組んでいる (保 73%) ・学校の授業は、生徒一人一人に合った教材・教具が準備されている (67%, 60%) ・学校の授業内容や進度は、生徒の実態に即している (保 67%) ・学校は、授業や学校行事等を参観する機会を設けて、教育活動について積極的に公開している (保 56%)。			
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・基礎的・基本的な学習内容の定着及び総合産業科における専門性の高い職業教育の推進 ・教育活動の情報発信による本校への理解促進			
重点目標を達成するための校内組織体制	・教育課程委員会（3年間の教育課程の管理、指導と評価の検討他） ・教科会、コース会（教科の指導内容の精選と指導計画の立案） ・各学年、分掌のICT担当による連携			
目標の達成に必要な具体的な取組	・各教科・コースにおける指導内容と評価項目の整理 ・シラバス等により、学習活動や評価方法等を周知 ・タブレット活用、ホームページ更新についての校内体制整備			
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・課題の取組状況、定期考査の取組状況 ・個別の指導計画の合意状況 ・学校評価アンケートによる理解度の状況			
取組状況・実践内容等	・教育相談(中学生)やオープンスクールを開催し、本校の教育活動について地域に発信ができた。 ・個人懇談を定期的に行い、生徒一人一人の取組状況を確認し、成果と課題を明確にして継続的な指導に繋げた。 ・定期考査を実施し、計画的な学習への取り組みを促進した。 ・行事ごとに活動の様子等をホームページにあげ、情報発信した。 ・通常授業や家庭課題等でタブレットを有効活用した。			
評価の視点				評価
①本校の教育活動について地域への発信状況 (オープンスクール、ホームページ)	A	B	C	D
②生徒一人一人への教育支援(個別の指導計画、懇談による継続的な指導)	A	B	C	D
③系統的な教科指導と評価方法の確立(定期考査の実施、評価基準の設定)	A	B	C	D

成果・課題	総合評価
○3年間を見通した教育課程を検討し、教材等の整理を行った。 ○各教科でタブレットを活用した効果的な学習方法の研究を行うことができた。 ▲つけたい力や評価の観点などの検討を全体で行うことができなかった。	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画と評価方法の検討を進め、生徒の主体的な学習活動を促進 ・個人懇談や通信、HP等を通じて、本校の教育活動の保護者への理解促進 ・職員の研究授業、教科会等による授業改善、つけたい力の共通理解

学校関係者評価（令和5年2月1日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標に「専門性の高い職業教育の推進」を位置づけ、教育課程委員会を中核に組織的に教育活動・学習指導が展開されており評価できる。 ・教育方針や指導内容が明確でわかりやすく、充実している。 ・ホームページによる情報発信など、外部の方々に学校の様子を公開しているのはとても良い。 ・出席停止等で登校できない状況下であっても、タブレット（MetaMoji）を活用して授業に参加できることは、生徒や保護者にとって安心材料である。 ・ICTの活用を向上させるため、他校の先進事例をより取り入れるとよい。 ・個別化した教育の充実をさらに深化してほしい。

評価する領域・分野	2「生徒指導（教育相談）」
現状及びアンケートの結果分析等 ＜%表記について＞ （生徒%、保護者%）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ではいじめや差別を許さず厳しく対応している（91.4%、66.7%） ・学校は、生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。（87.9%、72.9%） ・学校の先生は生徒に愛情をもって接している（67.2%、64.6%）
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる ・安心して充実した学校生活を送れるよう関係機関との連携強化
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部、教育相談担当、各学年、特別支援コーディネーター ・外部専門家との連携（教育委員会、スクールカウンセラー、警察等）
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ガイダンスの開催（情報モラル教育、交通安全教室、薬物乱用防止） ・生活（心）アンケート（いじめ防止、教育相談、生活改善） ・HR活動の充実（人権教育、いじめ防止、SOS教育、学校行事への取組） ・委員会活動、MSリーダーズの活動
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒感想や行動・言動の様子や変化（各ガイダンスやホームルーム活動等） ・生活（心）アンケートの記入状況、教育相談実施状況
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師や、外部の教材を用い、各種ガイダンスを実施した。 ・アンケートや日常の様子などから、問題を抱える生徒の把握に努め、速やかな対応と保護者連携を図ることができた。 ・特別活動（委員会、学校祭）の取り組みの中で主体的な活動を支援した。また、協力し合い、支え合うなどの体験を通して、人間関係を深めた。
評価の視点	評価
①生活（心）アンケートの記述内容と対応状況（速やかな生徒指導委員会の開催）	A B C D
②問題行動、交通事故数、欠席・遅刻・早退などの出席状況の変化	A B C D
③ガイダンスや行事、指導における記述内容（感想、振り返りなど）	A B C D
成果・課題	総合評価

<p>○迅速な生徒指導の対応により、課題の早期発見、コミュニケーションを通して気づきを促すなど、実態に応じた生徒支援ができた。</p> <p>○問題に応じ、外部の専門家と連携を図り対応することができた。</p> <p>▲生徒の問題ある行動に対して迅速に対応しているが、積極的な先手型の支援を充実させたい。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への声かけ、励まし、賞賛、対話を大切にした発達支持的生徒指導の強化 ・生徒理解に基づいた指導、支援の在り方、教育相談体制の強化 ・社会の一員として、必要なマナーの習得と責任ある行動や言動の育成

学校関係者評価（令和5年2月1日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶がしっかりできる生徒の姿がある。実習等においてもその力がいかんなく発揮されている。 ・いじめを克服する力や社会に出てからの孤立感を、自ら解決していける力を育ててほしい。 ・心のアンケートを有効に活用していてよい。速やかな対応が功を奏している。 ・学校内外の問題に対して迅速に対応する体制がとられていて安心である。 ・対人関係に悩みをもって入学してくる生徒も多いと思う。卒業後の自立を目指し、生徒の心に寄り添う教育を展開してほしい。 ・職員の前向きかつきめの細かい指導や、生徒たちと正面から向き合う姿勢を今後も維持してほしい。

<p>評価する領域・分野</p>	<p>3 「進路指導」</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等 <%表記について> (生徒%, 保護者%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の良さや可能性を伸ばせるような工夫 (81%、66.7%) ・進路に関する連絡や情報をわかりやすく伝えている (86.2%、70.9%) ・生徒の実態を的確に捉えている (62%、54.2%) ・進路指導において、関係機関と連携している (72.4%、68.8%) ・進路の実現を目指した積極的な学習 (96.5%、79.2%) ※昨年度の結果に比べると、保護者の評価が低くなっている。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身の自己理解（特性や就職への希望等）を深め、自己を成長させることができる生徒を育てる。 ・進路に関する見通し、評価等を職員間で統一できるよう「進路の手引き」を活用する。 ・進路通信や就職の実績等をホームページにアップし、保護者や外部関係者の理解を深める。 ・生徒が希望する進路を実現できるよう、企業へ働きかける。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部及び学年会や主任会（生徒の実態把握、課題や取り組みの共通理解、生徒の特性や進路希望等の確認） ・進路指導委員会
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の手引きの積極的な活用。 ・生徒の状況を把握するための取組。（日頃の関わりや懇談・面談、保護者への素早い対応） ・ホームページを使った情報発信。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つけたい力チェックシートを活用した総合的な評価 ・社会（企業）や保護者・生徒の評価 ・就職率や正社員率

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の手引きの活用（教員、保護者、生徒） ・各学年の課題に応じた、段階的な取り組みの実施 ・ホームページを活用した情報発信 ・企業等が参加するセミナー等での積極的な発表、学校見学
評価の視点	評価
① 進路の手引きやチェックシートの活用（校内の職員）	A B C D
② コロナ禍の保護者への進路指導に関する発信	A B C D
③ 3年生の就職率、正社員率（企業への発信）	A B C D
成果・課題	総合評価
<p>○各学年での取組が蓄積され、高い就職率、正社員率を達成できた。</p> <p>○保護者研修を定期的実施できた。</p> <p>▲蓄積されたデータや取組をまとめ、次年度に生かすこと。</p> <p>▲保護者の評価が低い部分を考察し、対応方法を検討すること。</p>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間蓄積されたデータをうまくまとめ、活用しやすい形にする。 ・進路の手引きの活用の活性化。 ・情報発信を活発に行う。（動画配信ができなかった） ・保護者の評価が下がっていたり、入学希望者が減少していたりする状況をつかみ対応する。

学校関係者評価（令和5年2月1日実施）

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後を見越し関係機関とよく連携し、各取組が展開されている。 ・就職に関して、正社員率が向上していることは素晴らしい。積極的な学習展開の成果であろう。 ・就職実績を維持し、魅力ある学校であることを広くPRしていくことが必要である。 ・社会全般の障がい者雇用の機運の高まりに合わせ、企業担当者に生徒たちのすばらしさを理解してもらい機会をもってほしい。障がいは個性であり、すばらしさの理解を深めてほしい。 ・自己覚知（自分のことを知る）をすすめる教育をしてほしい。 ・自分の思いを相手に伝えることの大切さを知ってほしい。 ・経験の積み重ねができるよう教育内容を用意し、そのことを通して自信をつけてほしい。
-----------	---

評価する領域・分野	4「保健管理」「安全管理」
現状及びアンケートの結果分析等 ＜%表記について＞ (生徒%, 保護者%)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。 (生徒 87.9%, 保護者 72.9%) ・学校の先生は、医師や看護師、保健室の先生とよく相談している。 (生徒 44.8%, 保護者 64.6%)
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活と適切な感染症対策に留意し、健康を保持するための知識や意欲、態度を育成する。 ・生徒が自分で自分の命を守る行動が取れるように、防災に関する知識と変災時の行動力を育成する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全委員会、保健安全部、学年会。 ・学校医及びスクールカウンセラーとの連携。 ・危機管理マニュアルに基づく非常変災時の組織。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの発行と感染症対策物品の充実。 ・外部医療機関との連携（各種健康診断の日程調整、事後指導等）

	<ul style="list-style-type: none"> 命を守る訓練や防災教室の実施。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を意識した活動や行動の定着。 健康診断における再検査の受診率の向上。 命を守るための行動の定着。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策物品を整備し、行動の指針を示し、感染症対策に努めた。 日常の健康観察の実施とほけんだより(毎月)による啓発活動を実施した。 医療機関と連携した健康診断の実施し、必要に応じて再検査の受診を依頼した。 外部講師を招いての防災教室や、実践的な命を守る訓練を実施した。
評価の視点	評価
① 毎日の健康観察の実施と感染症対策の充実	A B C D
② 健康診断の実施と再検査の受診促進	A B C D
③ 自助と共助を意識した防災教育の推進	A B C D
成果・課題	総合評価
<p>○毎日の健康観察の実施を通して、生徒状況の把握と早期の対応ができた。</p> <p>○感染症対策物品を充実させ、また感染症対策の行動の指針を示すことで、校内での蔓延を防ぐことができた。</p> <p>▲再検査の受診促進は行ったが、思うように受診率が上がらなかった。</p> <p>○様々なシチュエーションを設定して、より実践的な命を守る訓練を実施した。</p> <p>▲アンケート結果から、教師と保健室や学校と学校医との連携が不足、または連携の様子が可視化されず、不足しているように見えることが課題である。</p>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 再検査の受診促進については、書面での依頼と懇談でのお願いをした後は、家庭での判断となるため、学校としてできることには限界がある。腎臓や肝臓等の重篤な症状に至る可能性のあるものについては、保護者に電話連絡をしているが、例えば歯科への再受診について電話で依頼するのは現実的ではない。 教師と保健室や、学校と学校医との連携が不足しているとは考えていない。例えば、生徒の体調不良時の対応や健康診断や感染症対策における学校医との連携を、学校の役割の紹介としてホームページや通信で発信することで、生徒や保護者に見えにくい部分を可視化し、業務内容を理解してもらうことでより一層の学校への信頼につなげたい。

学校関係者評価（令和5年2月1日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策、メンタル面のケアについて、関係機関との連携を密に適切な対応がなされている。 新型コロナウイルス感染症対策において、クラスターを発生させないなど、感染を最低限にとどめた取組みは評価できる。 子どもの体調管理・健康管理は親の責任であるが、学校における安全管理が徹底されており安心である。 就職後に起こりうる危険に対する予知能力を学校生活で学んでほしい。健康は自己管理が大切であることも学んでほしい。 家庭との情報共有を進めるとよい。生徒自身が自分の体のことをよく知り、自身で対策が講じられるように育てたい。

評価する領域・分野	5 「保護者との連携」「個別の教育支援計画の合意形成」		
現状及びアンケートの結果分析等 ＜%表記について＞ (生徒%, 保護者%)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生は、個別の教育支援計画を家の人と相談し、自分の目標をわかりやすく説明している。(生79.4%) ・家の人の考えや自分の希望が個別の教育支援計画に反映されている。(生67.2%) ・学校の先生は、個別の教育支援計画を保護者や関係機関と連携して作成し将来を見通した支援をしている。(保72.9%) ・保護者や関係諸機関の意見が個別の教育支援計画に反映されている。(保60.5%) 		
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関の様々な側面からの取組を含めた「個別の教育支援計画」を活用した効果的な支援を実践する。 ・保護者が主体的にPTA活動に取り組むことができるよう支援する。 		
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援部、学年会、ケース会議 		
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会及び各コースの担当者による生徒の情報共有 ・懇談時における個別の教育支援計画についての協議 ・PTA本部役員会、各種委員会への協力 		
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談時の協議内容 ・PTA活動への出席状況 		
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的懇談の他、必要に応じて懇談を行い、個別の教育支援計画の内容の共有と改善に向けた協議を充実することができた。 ・PTA本部役員会や各種委員会を年度当初の計画通り実施することができた。 		
評価の視点	評価		
① 学校と保護者の連携状況	A	B	C D
② 懇談時の保護者への思いや本人の願いの共有状況	A	B	C D
③ 保護者同士の活動の交流や意見交流の状況	A	B	C D
成果・課題	総合評価		
<ul style="list-style-type: none"> ○懇談時に本人や保護者の願い等を確認し、支援につなげることができた。 ○必要に応じて懇談やケース会議を実施、関係機関との連携を図ることができた。 ○PTA活動を年度当初の計画通り実施することができた。 ▲個別の教育支援計画の活用の仕方を再度検討する。 	A B C D		
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の活用方法について、保護者に詳しく説明をする。 ・PTA活動内容を精選し、会員の方が多く参加してもらえるような研修及び会員同士が交流できる場を企画していく。 		

学校関係者評価（令和5年2月1日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携のもと、保護者の思いを反映した運営がなされている。 ・個別の教育支援計画は、一人ひとりに合ったプログラムになるよう、作成にあたっては生徒、保護者、教員が三位一体となって立案してほしい。 ・個別のケースについて、懇談やケース会議を通じて組織的に解決する体制が良い。 ・新型コロナウイルス感染症対策における各種制限が緩和される中で、教育活動の公開など、保護者への理解を深める機会を確保していくとよい。 ・個人懇談は、落ち着いてお話しできる貴重な機会である。連携を深める意味でも大切にしていきたい。

